

平成23年行政事業レビューシート

(文部科学省)

<b>事業名</b>	国際宇宙ステーション開発に必要な経費		<b>担当部局庁</b>	研究開発局		<b>作成責任者</b>	宇宙開発利用課長 佐伯 浩治	
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>	平成15年度～		<b>担当課室</b>	宇宙開発利用課				
<b>会計区分</b>	一般会計		<b>施策名</b>	X-6 宇宙・航空分野の研究・開発・利用の推進				
<b>根拠法令 (具体的な条項も記載)</b>	宇宙基本法 独立行政法人宇宙航空研究開発機構法第18条第1項		<b>関係する計画、通知等</b>	独立行政法人宇宙航空研究開発機構 第2期中期計画 宇宙基本計画(平成21年6月 宇宙開発戦略本部決定)等				
<b>事業の目的</b>	独立行政法人宇宙航空研究開発機構が実施する民生用国際宇宙基地のための協力に関する日本国政府とアメリカ合衆国航空宇宙局との間の了解覚書に基づく援助業務に要する経費に対して補助を行い、もって宇宙基地協力協定に基づく国の責務の遂行に寄与することを目的とする。							
<b>事業概要</b>	有人宇宙技術をはじめとする広範な技術の高度化の促進、経済社会基盤の拡充、新たな科学的知見の獲得、及び国際協力の推進を目的として、国際宇宙基地協力協定に基づき、国際宇宙ステーション(ISS)／日本実験棟「きぼう」の運用・利用を確実に実施する。また、宇宙ステーション補給機(HTV)の開発及び運用を確実に実施する。【補助率:定額】注)日本が得ているISS／「きぼう」利用の権利(リソース)を使う科学研究等の事業は運営費交付金で実施している。							
<b>実施方法</b>	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
<b>予算額・執行額 (単位:百万円)</b>		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	34,439	35,700	35,657	30,009	34,179	
		補正予算	△ 83	△ 29	5,172	0		
		繰越し等	524	0	△ 472	472		
		計	34,880	35,671	40,358	30,481	34,179	
	執行額	34,875	35,671	40,358				
執行率(%)	100.0%	100.0%	100.0%					
<b>成果目標及び 成果実績 (アウトカム)</b>	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
	目標:ISS計画に参画することにより、微小重力環境を利用した実験による多様な成果の創出やアジア唯一の参加国としての日本の国際的プレゼンスの向上、国内産業の競争力の強化等に寄与する。 成果指標:参考指標として独立行政法人評価委員会による評価結果を記載する。 (宇宙航空研究開発機構の行う事業は中期計画及び年度計画により定性的、定量的な目標を定めており、毎年度、独立行政法人評価委員会による達成度の評価を受けているため、これをもって成果実績とする。)			成果実績	—	—	—	/
	「日本実験棟(JEM)の運用・利用」の評価結果				S(特に優れた実績を上げている)	S	S	—
	「宇宙ステーション補給機(HTV)」の評価結果				A(達成度100%以上)	S	S	—
	達成度			%	—	—	—	/
<b>活動指標及び 活動実績 (アウトプット)</b>	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	○「きぼう」は、約四半世紀をかけた開発を経て、スペースシャトルにより平成20年3月から平成21年7月まで3回に分けて打ち上げられて完成後、軌道上に維持。 ○平成21年9月にHTVの技術実証機、平成23年1月にHTV2号機を打ち上げ、ISSへのランデブー、結合、物資移送、再突入(物資廃棄を含む)等を計画通り全て成功。 ○日本人宇宙飛行士として、若田飛行士、野口飛行士のISS長期滞在、山崎飛行士のISS短期滞在进行中。※平成23年6月には古川飛行士がISS長期滞在进行中。[平成23年度] 若田飛行士は、平成25年末からのISS長期滞在进行中、日本人として初めて搭乗員の指揮をとるISSコマンドー(船長)となること決定。 ○平成20年に「きぼう」の利用を開始し、平成23年3月時点で42課題(テーマ)の軌道上実験を完了。平成23年度は、継続も含め29課題の軌道上実験を実施予定。また、マレーシアのタンパク質結晶生成実験等、アジア諸国によるISS利用を推進。			活動実績 (当初見込み)	—	—	—	—
							( — )	( — )
<b>単位当たりコスト</b>	(独)宇宙航空研究開発機構が行う「きぼう」とHTVの開発・運用・利用等を総合的に実施するうえで必要な補助金のため、単位当たりコストの算出は困難		算出根拠	—				
<b>平成23・24年度 予算内訳</b>	<b>費目</b>	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	国際宇宙ステーション開発費補助金	30,009百万円	34,179百万円	国際宇宙ステーション計画の運用に必要な経費の確保(平成23年度の所要経費の一部は、平成22年度補正予算として措置されている。これらの額の合計を平成23年度予算と見なした場合、平成24年度概算要求においては約10億円の減となる(運用計画の調整等による減))				
	計	30,009百万円	34,179百万円					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	△	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	宇宙開発の特殊性により一定の一者入札が避けられないものもあるが、随意契約事前確認公募を含め、どうしても避けられない契約以外の契約については、引き続き条件等を見直し、競争化を進めることが必要である。
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>○契約については、真にやむを得ないものをのぞき、原則として一般競争入札等によることとしており、随意契約見直し計画を策定し、随意契約の割合を着実に低下させている。また、一般挙扱う入札等により契約する場合であっても、真に競争性、透明性が確保されるよう留意することとしており、一者応札となった案件について仕様書を受領した企業にアンケート調査を行い、仕様書の要求事項の明確化、適切な履行期間の確保などの改善を進めている。</p> <p>○HTV2号機の運用においては、「きぼう」運用管制チームとの協同作業などにより、地上運用管制費をHTV1号機と比較して約20%削減した。</p>		
<b>予算監視・効率化チームの所見</b>			
一部改善	<p>1. 事業評価の観点:この事業は、宇宙航空研究開発機構に対し、国際宇宙ステーションの開発業務に必要な費用を補助する独立行政法人向けの支出であり、長期継続事業に当たる。</p> <p>2. 所見:長期継続事業であるが、国際約束に基づく国際宇宙ステーションの開発業務として必要性が認められる。ただし、今後、参加各極の調整状況を踏まえ、我が国が負担すべき費用等については見直しを図っていくことが必要である。また、平成21年度レビューの指摘等を踏まえ、23年度において予算の縮減を図るなど一定の見直しを図ったことは評価するものの、引き続き、事業の効果的・効率的な実施を目指し、コスト縮減等に努めるべきである。なお、競争参加条件等のより一層の見直しを図るなど、契約の競争性、公平性、透明性を確保すべきである。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
<p>○国際宇宙ステーションの運用システム維持管理や搭乗員養成・訓練などの効率化を図り、平成24年度概算要求では前年度予算と比較し、「きぼう」定常運用に係る経費を縮減して概算要求に▲440百万円反映した。後続年度についても、更なる経費削減を実現できるよう作業の効率化などを検討している。なお、2016年以降の運用継続に向けて国際宇宙ステーション全体の運用の効率化の検討を進めており、我が国が負担すべき費用の見直しについて、今後参加国との協議を行う。</p> <p>○入札公告前に、チェックシートを用いて競争性を妨げる要因がないかを自己点検し、結果として一者応札・応募となった場合は、契約審査委員会で事後点検を実施している。また、競争契約に係る仕様書を受領した業者を対象に、入札に関して意見を求めるウェブアンケートを実施し、競争性、公平性、透明性の確保を図っている。</p>			
<b>補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)</b>			
<p>【事業仕分け第3弾】</p> <p>・A-23 国際宇宙ステーション開発に必要な経費((独)宇宙航空研究開発機構)、地球観測衛星の開発に必要な経費((独)宇宙航空研究開発機構)、(独)宇宙航空研究開発機構運営費交付金、(独)宇宙航空研究開発機構施設整備に必要な経費 (結果)見直しを行う(平成22年度当初予算水準を維持)</p>			

文部科学省  
40,358百万円

事業概要  
独立行政法人宇宙航空研究開発機構に対し、国際宇宙ステーションの開発業務に必要な金額を補助。

〔交付〕

〔A〕 (独)宇宙航空研究開発機構  
40,344百万円

事業概要  
国際宇宙ステーション(ISS)の運用を確実に実施し、有人宇宙技術及び宇宙環境利用技術の獲得と「きぼう」利用推進を行う。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:百万円)

企画競争等・物品役務等	【随意契約・物品役務等】	【企画競争等・物品役務等】	【随意契約・物品役務等】	【随意契約・物品役務等】	【企画競争等・物品役務等】	【随意契約・物品役務等】	【随意契約・物品役務等】	【随意契約・物品役務等】	【企画競争等・物品役務等】
〔A-1〕	〔A-2〕	〔A-3〕	〔A-4〕	〔A-5〕	〔A-6〕	〔A-7〕	〔A-8〕	〔A-9〕	〔A-10〕
・宇宙ステーション補給機(HTV)運用機フライトセグメントの製作 ・三菱重工(株) ・15,111百万円	・H-IIBロケット(宇宙ステーション補給機 運用1号機用)の製作 ・三菱重工(株) ・9,756百万円	・平成22年度 JEM運用業務 ・有人宇宙システム(株) ・1,908百万円	・宇宙ステーション補給機(HTV)多目的曝露パレットの開発 ・(株)JHIエアロスペース ・851百万円	・H-IIBロケット用フェアリング(SS-H型)の調達 ・川崎重工(株) ・539百万円	・平成22年度JEM実験インテグレーションの実施 ・有人宇宙システム(株) ・483百万円	・宇宙ステーション補給機(HTV)用スラスタの開発 ・(株)JHIエアロスペース ・480百万円	・JEM軌道上運用に係る技術支援(その3のウ) ・三菱重工(株) ・478百万円	・JEM軌道上運用に係る技術支援(その3のウ) ・日本電気(株) ・370百万円	・平成22年度 有人システムに係る安全・ミッション保証業務支援 ・有人宇宙システム(株) ・369百万円
事業概要 宇宙ステーション補給機運用機の製作を行う。	事業概要 H-IIBロケット運用1号機試験機2号機の製作を行う。	事業概要 JEM運用に関する業務を行う。	事業概要 HTV運用機の多目的曝露パレットの開発を行う。	事業概要 H-IIBロケット用フェアリング(SS-H型)の調達を行う。	事業概要 JEMを利用した実験インテグレーションを行う。	事業概要 HTV推進系における姿勢制御用装置スラスタ、メインエンジンスラスタの国産化開発を行う。	事業概要 JEMの軌道上運用作業の技術支援を行う。	事業概要 JEMの軌道上運用作業の技術支援を行う。	事業概要 JEM、ペイロード、HTV等に係る安全・ミッション保証業務の作業支援を行う。

A.宇宙航空研究開発機構			A-4.(株)IHIエアロスペース		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
業務費	宇宙ステーション補給機の開発・製作、宇宙ステーション補給機打上げ用ロケットの製作、「きぼう」の運用業務、「きぼう」の運用作業の技術支援等	40,344	製作	宇宙ステーション補給機(HTV) 多目的曝露パレットの開発	851
計		40,344	計		851
A-1.三菱重工業(株)			A-5.川崎重工業(株)		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
製作	宇宙ステーション補給機(HTV)運用機フライトセグメントの製作	15,111	製作	H-II Bロケット用フェアリング(5S-H型)の調達	539
計		15,111	計		539
A-2.三菱重工業(株)			A-6.有人宇宙システム(株)		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
製作	H-II Bロケット(宇宙ステーション補給機 運用1号機用)の製作	9,756	役務	平成22年度JEM実験インテグレーションの実施	483
計		9,756	計		483
A-3.有人宇宙システム(株)			A-7.(株)IHIエアロスペース		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
役務	平成22年度 JEM運用業務	1,908	製作	宇宙ステーション補給機(HTV)用スラストの開発	480
計		1,908	計		480
A-8.三菱重工業(株)					
費目	使 途	金 額 (百万円)			
役務	JEM軌道上運用に係る技術支援(その3のA)	478			
計		478			
A-9.日本電気(株)					
費目	使 途	金 額 (百万円)			
役務	JEM軌道上運用に係る技術支援(その3のウ)	370			
計		370			
A-10.有人宇宙システム(株)					
費目	使 途	金 額 (百万円)			
役務	平成22年度 有人システムに係る安全・ミッション保証業務支援	369			
計		369			

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト  
A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率 <sup>※</sup>
1	三菱重工業(株)	宇宙ステーション補給機運用機の製作を行う。	15,111	1	※
2	三菱重工業(株)	H-II Bロケット運用1号機試験機2号機の製作を行う。	9,756	随意契約	—
3	有人宇宙システム(株)	JEM運用に関する運用業務を行う。	1,908	1	※
4	(株)IHIエアロスペース	HTV運用機の多目的曝露パレットの開発を行う。	851	随意契約	—
5	川崎重工業(株)	H-II Bロケット用フェアリング(5S-H型)の調達を行う。	539	随意契約	—
6	有人宇宙システム(株)	JEMを利用した実験インテグレーションを行う。	483	1	※
7	(株)IHIエアロスペース	HTV推進系における姿勢制御用装置スラスタ、メインエンジンスラスタの国産化開発を行う。	480	随意契約	—
8	三菱重工業(株)	JEMの軌道上運用作業の技術支援を行う。	478	随意契約	—
9	日本電気(株)	JEMの軌道上運用作業の技術支援を行う。	370	随意契約	—
10	有人宇宙システム(株)	JEM、ペイロード、HTV等に係る安全・ミッション保証業務の作業支援を行う。	369	1	※

※同種の他の契約の予定価格を類推させるおそれがあるため非公表としている。